

F-2 余暇利用の実態と意識(第2報)

中村学園短大家政 山下正子

目的 近年余暇時間は漸次増加傾向にある。その原因は ① 週休2日制・夏期休暇等の実施に伴う休日の増加 ② 年次有給休暇の完全消化 さらに ③ 余暇利用に対する意識の変化があげられる。このような状況のもとで余暇をいかに利用し、またいかなる意識をもっているかについて、学生および独身社会人を対象に実態調査を行なった。

方法 対象 学生男子366名、同女子312名、独身社会人男子296名、同女子285名、計1,259名。時期 S48.10.18~31日に調査用紙配布、自己記入させた。回収率81.2%。設問各項目ごとに χ^2 検定し、学生・社会人(各男女間)の有意性を検討した。

結果 ① 年次有給休暇をとったものは全体で67.7%、特に男子は70.8%と多かった。② 有給休暇をとった理由は旅行が全体で35.3%、特に女子は41.9%と多かった。③ 夏に一泊以上の旅行をしたものは全体で49.2%あった。④ 旅行の日数は学生が長く、社会人は短い。特に社会人男子は3泊までと答えたものが74.3%と多かった。⑤ 旅行の目的は、風景を見る(36.0%)、名所旧跡をたずねる(13.7%)、ドライブ(10.4%)であった。⑥ 旅行の費用は1~2万円が29.9%と多かった。⑦ けいこごとをしているものは、学生・社会人ともに女子が多く、特に社会人女子は63.4%と多かった。⑧ けいこごとの種類は、花(35.9%)、茶(17.5%)、料理(12.0%)と答えたものが多かった。⑨ けいこごとの費用は、2,000~3,000円と答えたものが34.1%あった。